第３回学校運営協議会　議事録

・期日　令和３年２月１６日（火）　午前９時 30 分から午前 11 時 30 分まで
・会場　本校会議室
・参加者　影山冨士彦 氏　（第五地区西連合会　副会長）
　　三浦靖幸 氏　（東部社会教育振興協議会）
　　後藤譲治 氏　（特定非営利活動法人ティンクル沼津）
　　片岡亮太 氏　（和太鼓奏者・社会福祉士・本校卒業生）
　　Ｓ 氏　　（本校保護者）
　　Ｔ 氏　　（本校保護者）
　本校職員　校長　馬場俊一　　教頭　谷山和広　　事務長　経田美和
　　中学部主事　加藤佳奈　　養護教諭　蔭山みどり
　オブザーバー　小岱和代 氏 静岡大学教職大学院

３　会議の内容
⑴ 校長あいさつ
・今年度の概況報告
　２６日間臨時休業、夏休み１２日減、冬休み１日減により１３日分補填

⑵⑶ 学校自己評価について報告・説明、委員からの御意見、御提言等
学校経営計画の取組目標ア～オについて

ア　授業力の向上と視覚障害教育を中心とした専門性の維持・向上
影山：情報保障とは、どのようなことを指しているのか、教えて欲しい。
校長：視覚障害では、今起きていることを確認できないことが多い。そこで、その場で起きていることを随時説明していくことが、情報保障である。時間差は起きてしまうが、なぜみんなが笑ったのか、盛り上がったのかを伝えることが大切である。
Ｓ：先日の授業参観で、電磁石の実験を行なっていた。直列で強さが変わることを、くっつくクリップの数で確認していた。見えなくても確認する方法があることに驚いた。家でも、自分や姉妹がテレビを見て笑うと、「何が面白

いの？」と聞いてくることが多い。学校でも一人ポツンとしてしまうのかと思っていた。しかし、学校ではそのような情報保障を大切にしてくれていることがわかった。とてもありがたい。

校長：そう言ってもらえると嬉しい。一方で、教科の専門性、という点では大きな課題がある。本来なら、それぞれの教科の先生が複数おり、議論・研鑽していけるはずだが、人数の少ない本校では、教科担当が一人しかいない場合も多い。本当は近隣の五小・五中に出向き、授業を見させてもらうつもりだったが、コロナ禍のため実現できなかった。来年度こそ、実施できるよう期待したい。

片岡：教科の専門性について、ベテラン教員はなかなか向上を感じにくい、という話があった。その通りとも思うが、ベテラン教員の専門性向上として、どのあたりに余地があるか。

教頭：ＩＣＴはここ十数年でとても進歩している。これに関しては、ベテラン教員も専門性向上の余地がある。しかし、本校ではこのＩＣＴも拒否する職員はおらず、全校体制で使用できている。とてもよいと思う。

Ｔ：自分の子の授業も、以前は拡大教科書・ハンドルーペを用いていた。内容に興味を持つ前に、あきらめてしまうこともあった。しかし今はほとんどの教科書がタブレットで、見えにくいところは簡単に拡大できる。また、黒板も電子黒板を使っており、こちらも拡大できる。本当にありがたいと思う。

後藤：自分が関わっている福祉分野では、ＩＣＴについて少し遅れている。ベテランも拒否感を持たないのはすごい。参考までに、どのように進めてきたのかしりたい。

校長：３年前にＩＣＴの研究指定校になった。そのときの担当者が、「一部の人だけでなく全体でできるようにしたい。」と、とても簡単な内容から始めた。単純な使い方でも、とても有効だと皆が感じたことで、少しずつ浸透していった。その積み重ねが今につながっているのだと思う。

イ　心身の健康の保持・増進とキャリア教育の充実

教頭：進路については保護者と職員の間に認識のずれがある。

三浦：保護者にとって進路とは自立を願うものだと思う。提案として、沼津市内の企業や地元商工会議所などの代表に集まってもらうのはどうか。企業としてどのような人が必要なのか、働くためにはどのような力が必要か聞くことで、職員もわかりやすくなるのではないか。

後藤：集めて何を話すのか、見てもらうのかがとても重要となってくる。視覚障害を全く知らない方たちに来てもらうのならば、どこにポイントを置くか、前もっての準備がとても大変かもしれない。

三浦：可能なことからでよいと思う。みんなを集めるのではなく、代表だけでよい。

片岡：視覚障害者を実際に雇用している実績はなくてもよいと思う。一般の企業が求める、フラットな条件を聞けるとよいのではないか。自分の頃にはなかった話なので、あるとよいと思う。話は変わって少し質問したいが、職員と保護者の進路に関する意識のずれはどのようなものか。

校長：個々に障害の度合いが異なり、問題意識の方向性が個別に異なっている。聴覚障害、肢体不自由、発達の状態など、多岐にわたる。どれだけ学校が情報を持ち、適切なタイミングで提供できるか、が重要になる。努力していきたい。

影山：コロナ禍の中で、よい成果を出しているのが分かる。修学旅行も実施できたのはとてもよかった。しかし、目的地を変更したことで子どもたちの気持ちはどうだったのか。資料の中に出てこないので、聞いてみたい。

校長：もちろん、予定していた場所にいけなかったという残念な気持ちは強い。しかし、県内に予定を変更してから、改めて児童が調べ学習を始めると、浜松のことでも勉強になることはたくさんあった。帰ってきた後の表情や感想を聞くと、とても楽しく勉強できたと思う。また、中学部は下田に行ったが、浴衣の着付け体験やあじの開き体験など、多くの体験学習ができた。あじの開き体験では、全盲の生徒も含め全員が５匹を開いた。また、受け入れ先もとても丁寧に対応してくれた。生徒たちの満足度は高かったと思う。

影山：それはよかった。

校長：体育関連でとても悔しい報告がある。今年度スポーツ大会系はすべて中止され、県内の障害者スポーツ大会わかふじ大会も中止となった。１５００ｍ走に出場予定だった中２の生徒の努力を無にしないため、校内で記録会を実施した。とても良く伸びていた。盲学校では、全国通信陸上大会というのがあり、その結果と比べると、日本一の記録であった。残念ながら校内の記録は対象外のため、受賞を逃した。日本一という表彰をしてあげられなかった。

ウ　地域の特別支援教育のセンター的役割の遂行

Ｔ：年齢なのか、子どもはなかなか自分から話をしてくれない。しかし、Facebook にいろいろアップされるので、いろいろわかることがある。また、その話を子どもに振ることで、説明をしてくれる。とてもありがたい。

校長：見てくれているのが分かり、やりがいがさらに出てきた。ありがたい。

エ　防災・防犯教育の重視と安全で魅力的な環境づくり

片岡：「様々な場面を想定する」とあるが、そこには通学時も入っているのか。

校長：とても大切なポイントだが、想定できていない。幸いにも、幼小中ではほとんどが保護者による送り迎えであり、助かっている。一部、ＪＲや市バスを使う児童生徒もいる。とても大きな課題である。何かよい意見があれば伺いたい。

後藤：うちの施設での状況をお伝えする。やはり、視覚障害だけではない利用者もいる。そのためどの場面でも「頭だけは守る」ということを徹底している。

影山：魅力的な場所がある、という項目は素晴らしい。自分たち第五地区でも、「居場所作り」ということに力を入れている。具体的にどのような場所が魅力的な場所になっているか。

校長：図書室を始め、廊下や教室に様々な本が置いてある。また、運動好きには体育館、トランポリンが人気である。

オ　仕事への意欲につながる業務改善とワークライフバランスの確保

後藤：教材研究の日が有効とある。よいことは取り入れたい。教材研究の日とはどのようなものか、報告とかが必要なのか。

校長：毎週金曜日、放課後に会議を入れずに時間をあけている。時間の使い方は各自にお任せである。純粋に教材を作成することもあれば、数人が集まって「英語だけで会話する」などミニ研修をしたり、研修のビデオを流して、好きに見てもらったりと、活用されている。

(4) 不祥事根絶に向けた取組の報告・説明

教頭：資料を元に概況説明。

・ＡＢ合わせて７０％に満たないものが１１、２１、２９と３項目あった。

・同僚に関することの２１に関しては、７月より若干改善したが、いまだ低い

結果である。
疲れが出てきている。コロナ対策の消毒スタッフが加わり、少しは職員の負担を軽減できてきた。職員の心に余裕ができるよう、注意していきたい。

⑸ その他
・学校への提言　等
後藤：自分の施設で支援をしていて、最近課題を感じることがある。周りの方の状況を把握できないためか、作業効率が悪い場合がある。他者と比較することがよいこととは思わないが、主観的になりすぎるのも問題である。ある程度年齢がいっている方に伝えるべきなのか、悩みどころである。
片岡：とてもわかる。しかし一方で自分自身に集中できるという利点もある。音楽業界では、盲人が貢献してきた歴史もある。とはいえ、客観的な情報は伝えて欲しい。結婚後、晴眼である妻から指摘されてびっくりしたことがたくさんあった。広い視野を持つためにも、子どものうちから伝えていくことがよいと思う。これは学校だけでなく、家庭でも重要である。
三浦：授業力、教科の専門性のところで人数が少ないことが弱点だと言っていた。しかしこれは同時に利点でもある。少人数を生かした個別の支援を充実させて欲しい。

⑹ オブザーバーより
１．組織として活用を
校長とＰＴＡ会長の連名での書類がある。それと同様に、学校運営協議会長との連名で保護者や地域にアピールできるとよい。
２．地域の活用を
沼津市はコミュニティスクールについて遅れ気味であった。しかし今年度から、この沼津視覚がある第五地区や隣の大岡地区は推進地区となっている。昨年度のダイアログ・イン・ザ・ダークを連携して実施したと、第五地区側では伝えている。大岡地区では取組が県で賞を取り、発表予定である。ぜひ連携して欲しい。
３．エリアとテーマ設定を
コミュニティスクールでは、エリアとテーマを設定することが言われている。もちろん、特支ではエリアが広くなる。そこで、テーマごとにしっかりエリアを考えて取り組んでいけるとよい。